

議長（竹島ユリ子君） 1番 野村信夫君。

1番（野村信夫君） おはようございます。1番の野村でございます。よろしくお願いたします。

私は、村道稲荷学校線の通学児童の安全性の確保について質問させていただきます。

本村は、平成になってから人口増対策に着手し、立地環境のよさを最大の武器に着実な成果を上げ、約1,400人だった人口が2,900人にまで増えてまいりました。人口の増加により若い世代の流入が多く、世間では少子高齢化問題が問いただされていますが、本村は未就学児童が急増し、高齢人口割合に比べ年少人口割合が非常に高く、理想的な体系になっていると言えます。

しかし、逆に急増したことによる問題点も多くあるように思います。教室不足による施設問題や保育時数の不足問題など、目につきやすい問題もありますが、私はその中で、村道稲荷学校線の児童生徒の安全性の確保の必要性を取り上げました。

この道路は幅員4メートルと非常に狭く、以前から改良要望などが多くありましたが、難しい財政状況の中で拡張工事の実施は難しく、断念したと聞いています。しかし、6月1日現在の小学校の児童数は254名おります。稲荷地区29名、国重地区から68名の児童が通学しています。両地区から97人と、実に全体の38%を占めております。しかもこの道路沿線には保育所もあり、送迎の車も多く通ります。また、駅南駐車場への通勤者の車もあり、非常に危険性が高いと思います。

村は、総合計画後期基本計画の中で、重点的取り組みに「安心・安全なまちづくりに取り組む」と公表しています。村道稲荷学校線の安全性確保対策の早期実現を要望します。

村長のお考えをお伺いします。

以上、質問を終わります。

議長（竹島ユリ子君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 1番野村議員のご質問にお答えいたします。

議員がご指摘のとおり、村道稲荷学校線は幅員4メートルであり、学童の主要通学路になっているのは事実でございます。十数年前から関係する国重・稲荷地区の改善要望であり、現在も継続して、安全な通学路の実現を要請されているところでございます。

このように地区要望がなされてきたのに、当局が何か無視したごとく思われ、誤解されていると思いますので、この路線に係る現在までに至る計画の経緯を簡単に私のほう

から報告させていただきたいと思います。

まず、この計画に入ったのは平成8年から9年でございます、この道路改良を進めるための基本計画、あるいはまた基本設計をいたしまして、その成果品を持って関係の自治会のほうへ説明に行っていました。

その結果、地元の了解のもとに平成10年から14年にかけて、土地の所有者あるいはまた物件補償といいますが、物件を移転しなくてはならない方々の交渉をいたしまして、買収価格あるいはまた補償価格の交渉を進めてまいりました。それが平成15年度によろやく関係者の内諾をいただきましたので、平成16年度から3カ年継続の道路改良事業として実施することにいたし、県との協議も完了したのであります。

その事業の概要を申し上げますと、延長452メートル、幅員10メートル 片側歩道でございます。総事業費1億4,600万円、別に村単独事業費として1,760万円という事業の概要でございます。

しかしながら、皆さんご承知と思いますが、平成16年度から国の三位一体改革が始まったこととこの事業の実施年度と重なったわけございまして、その当期には地方交付税の削減額など財源確保に不透明な要因があると考えられまして、事業化を断念せざるを得ない事態となったということでございまして、そういう点、皆さん方もご理解いただきたいわけでございます。

それでは今後どうするのかということでございましてけれども、私はその整備方針につきましては、道路づくりということのハードから、例えば交通規制を行うとか、あるいはまた逆に歩道専用のものを何かできないかというふうなソフトへの転換を視野に入れて整備をすべきでないかというふうに考えているところでございます。

今後、十分調査研究してまいりまして、早く結論を出しまして、通学路あるいはまた学童保育の利便性、いろんな安全性を考えまして取り組んでまいりたいとかように思っておりますので、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます、私の答弁とさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。